

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を遵守し、職員全てが共通した目標を持って、実践に臨んでいる。	法人の理念に基づき、グループホームとして「身近なお世話・あたりまえの生活」を念頭に実践していることが分かります。	今後理念の共有化という点で、掲示方法や伝え方に工夫が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	餅つき等、当ホームの行事に地域の方々に参加して下さったり、散歩中に声を掛けていただいたりしている。また、河川や道路愛護等、市報や回覧で知り得る地域行事に職員は参加している。	地域にできた新しい家という意識で近隣の方々や組織等とのつきあいが行われていることを確認できました。地元での食材購入や地域行事などを通じた交流がはかられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どなたでも気兼ねなく足を運べ、当ホームでの日常生活が見学できる。また、災害時に市町村と協議のうえ、空き部屋を避難場所として開放した実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度、自治・民生委員、入居者家族、市の職員等を構成員として開催しており、入居状況や活動状況等の報告を行うと共に、多様な意見や助言をいただいている。意見あった事項は早期の対応・解決に努めている	運営推進会議の記録より、地元自治委員や行政担当者等から積極的な意見が交わされていることが分かります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じての実情報告及び必要時には確認や指導を仰ぎ、より良い運営ができるように努めている。	現在のところ市との連携体制が構築され、情報交換もなされていることが分かりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室・共有スペースは掃出し窓、居間はウッドデッキと、開放的な造りになっており、見通しも良いため、入居者の行動が把握しやすい見守り環境になっている。日中玄関の施錠はしておらず、入居者に寄り添い、見守りケアを心掛けている。	基準に基づくマニュアル類の整備や環境的な配慮が行われていることを確認しました。	今後はマニュアルに照らしてチェックシート等による実践の検証が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意喚起すべき情報があれば、朝の申し送りや職員間の情報交換によって共有し、虐待の防止について再認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談あれば、窓口となる職員が仲介し、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に運営方針及び目的、費用等について十分に説明を行い、理解(同意)が得られた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の内容を議事録として残し、どなたでも閲覧可能な場所に設置している。また、個別記録とは別に、連絡ノートを用いて職員への周知を図っている。	利用者との普段の会話や、家族面会時・サービス計画見直し時等の機会を利用し、利用者・家族の意見をケアに反映させようとして取り組んでいることが連絡ノート等の記録からも分かります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は職員会議及び役職会議を行い、各担当者からの報告や疑問が出される場を設けており、協議し改善に努めている。	職員が意見を言いやすい雰囲気をつくるよう管理者が配慮していることが分かります。出された意見や要望については、役員会議等で検討していることが諸記録により確認できました。	職員から出された意見等については、検討のプロセスを記録に残しておくことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりの個性を最大限に発揮し、向上心をもって就労できるよう職場環境の整備に努めている。また、メンタルケアの実施にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践していくなかで、不安や解らないところがあれば、キャリアのある職員が手本となり、スキルアップや職員の連携を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内グループホームへの見学研修や研修会等への参加を通じて、良い所を自施設に反映させ、より良いサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の折、入居相談に至った経緯・生活歴を聴取するとともに、サービス利用前に本人との面会を行い、詳細なアセスメント作成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の折、入居相談に至った経緯・生活歴を聴取するとともに、本人の生活に対しての要望を確認し、ケアプランにできる限り反映させるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に至った経緯を聴取するうえで、本人の状態や要望から他のサービス利用が望ましいと判断した場合には、必要な助言や情報提供を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、本人のできることや得意なことを把握し、見守りや声かけのもと柔軟な対応をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の得意なことや習慣を大切に、掃除・食事の準備等、役割を持って生活を営めるよう努めている。家族の面会時には、普段の様子や要望等をお伝えし、必要な確認や相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの人が集う地域行事に参加したり、長年通う病院への通院を継続し、馴染みの人との関わりが途切れないように努めている。	ふるさと祭りやひな祭りなどの地域行事への参加や病院受診などを通じて、馴染みの関係継続支援に取り組んでいることが分かります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大まかな一日の流れがあり、ティータイムやレクリエーションの参加を促し、共用の場に入居者が集う時間を設けている。職員も輪に入り、入居者の橋渡しをするなど、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護サービスやその他についての相談を受け、必要な助言を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聴取や様子観察にて、新たな意向や変化に注意しながら情報の共有を図り、それをもとに介護計画等の見直す材料にしている。	利用開始時のアセスメントの段階から、丁寧に利用者・家族の意向や思いを確認していることが諸記録から読み取れます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りや情報提供により、生活歴を確認し、入居後も本人との会話や家族・知人の面会時に話を伺い、本人への理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や職員間での意見交換を密に行い、日々の状態や変化を観察し、早期に把握、情報の共有ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録から情報を得ることは基より、課題が生じた際には、家族への報告及び確認、職員からの情報収集や意見交換を行い、介護計画を作成している。	ケアマネジメントの過程に沿い、スタッフや関係機関の専門職とも連携し丁寧かつ確実に展開されていることが諸記録により確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日を通しての様子を、一人ひとりケア記録に記入し、記録のなかに気づき欄を設けて、気になる事柄やケアへのヒント等を引き継ぎ、実践に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時に本人の普段の様子を伝え、現状の理解・把握ができるように努めている。また、自分らしく過ごせるよう柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近辺は自然や四季の移ろいを身近に感じられる環境下であり、季節ごとの催しや土地柄を活かした生活が送れるよう支援している。また、本人が持っている力が活かせ、楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を数か所定めているが、意向を第一優先にかかりつけ医を決定し、必要な受診支援を行っている。受診の際は的確な状態報告のもと、適切な診療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医や協力医療機関とも連携し、医療機関との情報交換や家族への説明など丁寧に対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化に注意しながら観察している。また、健康上の気づきがあれば、看護職をはじめ職員相互で共有し主治医への相談や受診などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、管理者や職員が面会を行い状態や経過の把握に努めている。また、必要に応じ、病院への情報提供や情報交換を行い、適切な対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームで対応可能な状態等について入居時に説明し、同意のうえ利用していただくようにしている。	利用開始時に事業所で対応可能なことと困難なこと、緊急の場合の対応などの連携体制等を丁寧に説明しながら取り組んでいることが分かります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が確認しやすい場所に設置している。複数名の職員は救急救命の講習を受講しており、必要なスキルを身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画や緊急連絡網の作成、自主防災組織図を設置しており、地域の協力体制を構築していく予定にある。	地域や消防署との連携体制を構築すべく取り組んでいることが、記録類からも分かります。	今後はシミュレーション等による避難訓練の工夫も検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、入居者一人ひとりの誇りやプライドに配慮した言葉選びをするなど、人格を尊重した関わりを心掛けている。	事業所の理念に基づき、利用者ひとり一人を尊重して対応していることが「利用者家族アンケート」やケース記録などからも伺え、注目に値します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が遠慮せずに、自身の思いや希望を表現できるよう受容した態度で、声掛けや傾聴している。日常生活の色々な場面でも自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション等は自由参加にて行っている。日々のスケジュールを入居者本人に選択していただきたいと思っているが、選択肢が十分に提示できておらず、マンネリ化している所がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容師が来られ、本人の希望を聞きながら整髪していただいている。身だしなみは、起床後に洗顔整髪を本人の能力に合わせて、促しや介助のもと実施している。服は本人に好みを聞きながら選定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、出来る範囲で準備や片付けを声掛けにて職員と一緒にしている。また、身体機能にあわせて食べやすい様に工夫している。	「あたりまえの生活」を支援するという理念に基づき、おぼん(トレー)は使わないなど、配慮とこだわりが感じられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を個別に記録し、食事量の減少があれば、状態に合わせた補食等に対応している。水分量の少ない方には、本人の好物等を提供し、低栄養・脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを呼び掛け、介助が必要な人には、ブラッシング・うがい・義歯洗浄等、必要に応じて行っている。義歯は夕食後に義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努め、定期的な声掛け及び誘導を行っている。安易なオムツ使用は控え、排泄機能の維持向上を目標とした対応に努めている。	利用者の排泄状況のアセスメントや支援記録に基づき、尊厳に配慮した支援が行われていることが確認できました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かす機会を設けるとともに、排便確認を行い、水分を多く摂るよう促している。希望者には牛乳やヤクルトを飲用していただき、予防に努めている。医師の指示にて、薬での排便コントロールもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予め入浴日は決めているが、午前、午後に分け希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しんでいただいている。洗身等、出来るところは本人にしている。	利用者のペースにあわせて入浴支援を行っていることが分かります。入浴を拒否される方への声かけの工夫など苦心が伺える点です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の表情や状態に気を配り、疲労があると思われる時は休息を促すようにしている。また、夜間不眠の方には、話を傾聴する、安心感が得られるような声かけをする等、穏やかに過ごせるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬とその効果をまとめた表を作成し、理解に努めている。症状の変化等については、かかりつけ医に報告、相談し対応している。必ず日付と名前を確認し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から情報収集を行い、日常生活やレクリエーション、個別活動のなかで趣味や得意分野を楽しめるように努めている掃除やテーブル拭き、御飯をよそっていただいたりと、個々の能力に合せた役割を持ってもらえよう働きかけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ならではのイベントに計画を立てて参加したり、流しソーメンや餅つき大会を地域の人と一緒にしている。地域の行事に出かけたり、天気の良い日には近所を散歩したり、ドライブに出かけたりもしている。	風光明媚な場所という点を活かしたドライブ（花見・紅葉狩り・ホタル見物等）や日々の散歩など、地域性に配慮した外出支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員がお金の管理を行っているが、一人ひとりの希望や管理能力に応じてお金を所持している人もいる。また、近所のお店に買い物に出かけ、自身で購入することにより、社会参加の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便り(年賀状や暑中見舞い)を恒例の季節行事として行い、人との関わりや習慣、楽しみが在宅同様に継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある窓を取り入れ、外の様子や季節の移ろいを眺められるようにしている。居間(共用スペース)も季節を表すような飾りがしてあり、心地よく過ごせるように努めている。	リビングやウッドデッキなどの共有スペースと居室のプライベートスペースをうまく配置し、安全面への配慮もされていることが確認できました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が快適に過ごせるように場面により、座席を工夫したりと配慮に努めている。居間にはソファを設置し、くつろいで過ごしていただけよう環境を状況に合わせて調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家具や寝具など、利用者の使い慣れたものなど持ち込んでいただき、レイアウトも本人が快適に、安全に過ごせるように整備している。	居室のトイレは安全面と支援面に配慮された造りとなっています。家具や写真の持ち込みや、夫婦での利用に対応できるなど細やかな配慮が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造平屋造りで、適所に手すりを設置する等、安全への配慮を行っている。また、利便性を高めるばかりではなく、本人が使い慣れ、認識しやすいものは、あえて利用者の視点で考え、取り入れている。		